



「京都市市民参加推進フォーラム」活動開始

「市民参加推進フォーラム」って何？

「市民参加推進フォーラム」は、「京都市市民参加推進計画」（平成13年12月策定）に掲げた様々な取組を推進していくに当たって、京都市に対して助言や提案を行うとともに、市民と行政の協働の取組を進めるため、西鳥安明京都市立芸術大学長を座長に15名の委員により、本年8月7日に設置しました。

どんなメンバーなの？（折り込み参照）

どんな取組をするの？

1 申請

京都市からの提案を受け、様々な立場から具体的な市民参加の取組について協議し、市民参加について市に意見や提案を行います。



2 協働の取組

●電子会議室の試行実施

電子会議室の運用ルール設定や会議テーマの認定、会議室開設時の様々な対応などを行う「電子会議室運営委員会」の委員として、京都市と協働の下、試行実施に取組みます。

●市民コーディネーターの養成

地域のまちづくり活動に協力する「市民コーディネーター」の養成のための実施要領を作成します。

3 ネットワークの拡充

市民や団体をネットワーク化するため、「市民参加ニュースレター」などを媒体として、様々な会議やイベントへの参加を呼びかけ、市民参加について広く市民に協力をいただくよう働きかけを行います。

また、このような「市民参加ニュースレター」を定期的に発行します。



よく、市民参加推進フォーラムのマスコット「ビーびる-さんか」です。「市民参加」って何だと思いませんか？よくたち市民が、役所任せにせず、市政やまちづくりに参加していくことなんです。

市民参加推進フォーラム シンポジウム 「市民参加推進条例を考える」を開催

10月20日午後2時から、元龍池小学校において、市民参加推進フォーラムの主催により、シンポジウムを開催しました。

この「市民参加推進条例」は、「信頼とパートナーシップの市政」を市政運営の基本方針に掲げる京都市が、昨年12月に策定した「市民参加推進計画」において、「今後の京都市の市政運営の柱となる市民参加の基本的事項を定める条例」として、「市民参加推進条例（仮称）」の制定を掲げ、検討を進めているものです。

現在、「条例案」大綱（素案）をとりまとめ、市民の皆さんから意見募集をしているのにあわせて、市民参加推進フォーラムにおいても、市民の皆さんと一緒に考え、語り合いながら、より多くの市民の意見を条例に反映させるため、シンポジウムを開催しました。

当日は、雨模様のお天気にもかかわらず、百名近くの市民が集まり、京都市の市民参加や「条例案」大綱（素案）について、会場からの意見を交わしながら、熱い議論が交わされました。



まちづくり人 登場!!

第1回 梅津まちづくり委員会

「市政への参加」だけではなく、市民が自主的に取り組む「まちづくり活動」も市民参加。みやこ協働通信では、そんな「まちづくり活動」に取り組んでおられる方たちを「まちづくり人」と名づけ、様々な取組とともに、まちづくりへの熱き思いをシリーズで紹介していきます。

第1回目は、「大学のまち」といわれる京都で、大学生と協働で特色のあるまちづくり活動を進めておられる「梅津まちづくり委員会」取材しました。「梅津まちづくり委員会」は「まちを良くしていきたい」という思いを持つ地元有志の方が集まり、平成12年に発足。会員は現在、約90名。自分たちのまちを見直すタウンウォッチングの実施や「梅津まちづくり交流祭」の開催、有栖川の改修をきっかけとしたワークショップや川づくり学校など、地域の様々な団体と連携・協力して、多彩な活動を展開しています。

「梅津まちづくり委員会」委員長の中川義和さん、副委員長の吉村勝人さん、立命館大学産業社会学部乾亨ゼミの宇野功二さん、岩田紀美枝さん、今村にさん、深澤博文さん、永野亜弥さんにお話を伺いました。

中川さんが、梅津まちづくり委員会委員長へと なられたのは？



中川さん 平成11年、梅津自治会館の建設という課題があり、自治連合会の役員として、住民の方にまちづくり活動の拠点になると説明し、賛同してもらった。その後、まちづくり委員会発足の話があり、梅津でまちづくりを進めなければ、あの時、嘘をついたことになる、委員長を引き受けたんです。

吉村さん 梅津でも昔のよさが失われたり、人間関係が希薄になったりという問題があり、まちづくりに今までのしがらみだけにとらわれずに自由に意見を言える新しい組織が必要と思っていたんです。



中川さん でも、吉村さんは、なかなか副委員長を引き受けてもらえなかったんですよ。(笑)

吉村さん じゃばってはいかんと。これからは若い人が中心となって進めていかないと。(笑)

その若い学生さんたちはどのような思いで、 梅津のまちづくりにかかわっていったのですか？

中川さん 私が言うのも変ですが、最初の2年間、何聞いても意見を言ってもらえなかった。今はいろいろ言ってもらえるようになったけど、何でも正直に言っていよいよ。(笑)

◎学生とのパートナーシップによるまちづくり

宇野さん ゼミの先生から半強制的に連れてこられて、どうなることかと。で、最初がタウンウォッチング。自分が住む地域とは違う地域を見て話を聞くのがおもしろくて、それがまちづくりへ入って行くきっかけだと思っています。



岩田さん 私の場合は、ゼミで4つのまちづくりの場所から選ぶことになり、一番住んでいるところに近かったから(笑)。でも、それだけじゃなく、梅津まちづくり委員会が立ち上がったばかりで、何を核にまちづくりを行うか決まっていなかった。どんなことでもできる可能性があり、そこに魅力を感じました。

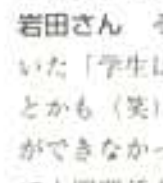


今村さん 梅津でどういうまちづくりをして行くのか、まちづくりの始まりを自分の目で見たいと思いました。活動に参加することで、まちづくり観が持てるようになり、まちが良くなれば何をしてもいいんだ(笑)と思いました。

永野さん 梅津では人と人とのつながりを大事にしたまちづくり活動が行われている。その活動を通していろいろな人と関わることができる。そこがよいと思いました。



深澤さん 実は、最初のころは話し合いに参加しても場をわきまえなければならない、と思ってなかなか意見を言えなかった。お手伝いをさせてもらっているという感じで、どういうタイミングで意見を言えばいいか、察知できなかったんです。



岩田さん それが中川さんがおっしゃっていた「学生は何にもしゃべらん」ということかも(笑)。会議に参加しても何も発言ができなかったけど、次第に活動に参加して人間関係が出来上がってくると、雰囲気も分かり意見を言えるようになってきました。



中川さん 最近は察知できるようになってきた(笑)。
岩田さん そうなんです。活動を進めていって、住民の人としゃべれるようになって、それで、自分たちから何かを働きかけたいと思い、お祭りの提案をしたんです。

中川さん 前から、梅津全体でお祭りをしたいということ

があり、学生さんが「やりましょうか」と手を挙げてくれました。昨年10月に「梅津まちづくり交流祭」を開くことができたんです。

吉村さん 「やりたい、やりたい」という掛け声だけではなく、具体的な企画を持って来てくれた。そこでわれわれの思いと一致したんです。

みなさんにとってまちづくりとは?

中川さん まちづくりとは「みんなで作るしあわせづくり」だと思います。人づくり、環境づくり、仲間づくりがキーワード。梅津のことを考える人が多く住むようになるために、自分も他人（ひと）も大切にする人間を増やしていく必要がある。また、住みまちの環境だけでなく、地球環境を含めて広い意味で全てが調和に向かうという宇宙の摂理を見据えた「宇宙観」もまちづくりに必要ですね。

吉村さん 最近、まちづくりを進めているところが増えてきましたが、商店街の活性化や町家の保存など目的がある場合が多いですが、梅津は漠然としていて、梅津を良くしようとそれだけでした。今は風呂敷数を大きく広げて行っているところで、全て中途半端にならないといいのですが（笑）。学生さんには大いに期待をかけているんです。

深澤さん まちづくりには小さな動機が大切で、「これおもしろいんじゃない?」と思って、単純な動機で取り組むことが大きなステップにつながると思います。

今村さん まちづくりを通して、ひとのかたちが見えてきたような気がしています。どのようにすれば、人と通じ合えるのか、少し分かってきたのかも。

吉村さん 今村君は、祭りのとき、のほりをもって小学校まで人集めに行ってくれたんです。

中川さん 結局、自分が楽しまないといけない。結果は二の次で、プロセスをどう楽しむかが重要。楽しみすぎて、打ち合わせの時間が延長してしまう。それが玉にキズです。（笑）

終始、笑いの絶えないインタビューでした。梅津まちづくり委員会では、役員の方と学生さんとのしっかりとした



「梅津まちづくり交流祭」のひとコマ

信頼関係のうえで、手づくりのまちづくり活動を行ってこられました。

これからは、まちづくりに子供からお年寄りまで幅広い世代の人に参加してもらえるように働きかけを行い、福祉や教育など、総合的にまちづくりを進めていくとのこと。

様々な可能性を秘めた、梅津のまちづくりに、地域の期待が集まっています。

インタビュー後記



木村寿夫委員

（市民参加推進フォーラム委員）

中川さん、吉村さんの長年の自治会活動での経験が委員会の運営に生かされている。京都の自治組織は、活動の硬直化と住民の自治活動の無関心から危機を迎えているといわれるが、お二人は「人材はいくらでもおり、気づかないだけだ。一本釣りでも引き込んでいる。」と笑う。至言だと思う。委員会は地域社会を住民の協働で少しでも良くしていこうという「普通のまちづくり」から始まり、有栖川の改修を通じて「水」という環境問題へとまちづくりの関心が広がる。学生たちの屈託のない笑いから、世代を超えた協働がこの国の明るい展望を切り開く気がした。



鍋倉久美子さん

（大学コンソーシアム京都インターンシップ受講生）

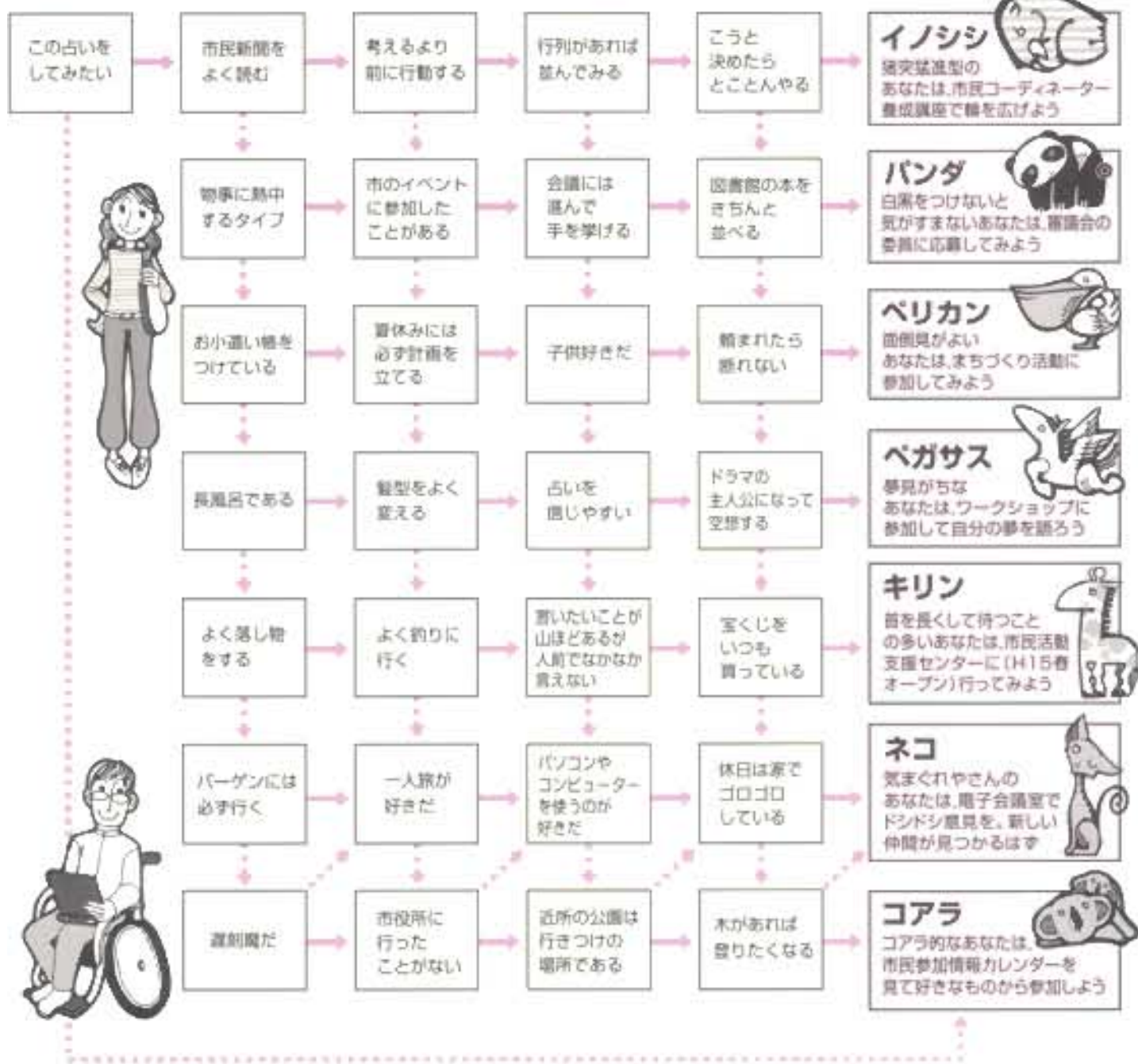
梅津まちづくり委員会と学生との間にしっかりと信頼関係が結ばれていることがとても良く伝わってくるインタビューでした。まちづくりに若い人が参加することはすばらしいと思います。まちづくり委員会、梅津に住む人、学生、行政がお互いの役割を果たしながらまちづくり活動を進めていく必要があると思います。



ワークショップの風景

市民参加動物占い

→ Yes (はい)
 ... No (いいえ)



事務局からのお知らせ

市民参加推進フォーラム「みやこ協働通信」の発行について

これからも市民参加推進フォーラムの協議状況や開催予定、シンポジウムの開催予定などを、市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」として発行し、市役所・区役所、図書館などで配布します。
 また、ニュースレターに関するご意見・ご感想を事務局までお寄せください。

市民参加推進フォーラムは皆さんの声を活かして行きます。ご意見は事務局までお寄せください。

市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」 第1号(平成24年3月)発行済み

事務局:〒604-8571 (住所記載不要)
 京都市総合企画局パートナーシップ推進室
 電話 075-222-3178 / FAX 075-213-0443

Eメール partner@city.kyoto.jp ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/sogo/partner/index.html>

「動物・イラスト」は京都造形芸術大学情報デザイン科3年 野上梨絵さんの作品です。